平成27年度第1回恵那市総合計画推進市民委員会会議録

日時：平成28年1月29日（金）
午後1時30分から
場所：恵那市消防防災センター3階研修室

---

1. 委嘱書の交付
2. 自己紹介
3. 市長あいさつ
4. 会長、副会長の選任
5. 会長・副会長のあいさつ
6. 会議の公開、公表について
7. 第2 次恵那市総合計画の概要説明
8. 「恵那市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について
   (1)「人口ビジョン」（案）について
   (2)「総合戦略」（案）について
9. その他

1．委嘱書の交付

■事務局（進行）　最初に市長から委嘱書を渡す。自席で受け取ってほしい。

〔　市長から委嘱書を交付　〕

2．自己紹介

■事務局（進行）　一言ずつ自己紹介してほしい。
■安藤委員　恵那市地域自治区会長会議選出の串原の安藤です。総合計画審議会に 1 年携わった。重要な職務だ。しっかり全うしたい。
■磯部委員　学童保育児童クラブで指導している。働く父母を支え、子どもたちの安心安全な放課後を保証するように毎日元気で遊んでいる。この重い会議で何が発言できるか分からないが頑張る。
■伊藤委員　地域自治区代表者会議から来た。東野自治連合会の会長だ。普段東野地域の代弁者として活動している。総合計画策定委員もしていた。
■大下洋一　十六銀行恵那支店の大下です。1 月に恵那に赴任したばかりだ。重要な委員会の委員になり身が引きしまる。
■大島委員　ＮＰＯ法人奥矢作森林塾を立ち上げ 10 年ぐらいになる。人口減少対策を主力にしている。この 5 年で串原は 40 人の人口減少で済んだ。こういう重要な会議に参加するということで、何とか任期までは努めたい。
■小木曽委員　社会福祉協議会、地域福祉課にお世話になっている。福祉は合併前から携わっている。この 10 年で、介護保険から障がい、引きこもりとだんだん福祉関係が幅広くなっている。今後とも協力したい。
■樹神委員　恵那市地域自治区代表者会議から来ている。長島地区の会長をしている。こういう会議には続けての参加だ。
■後藤委員　道の駅おばあちゃん市・山岡の駅長をしている。おばあちゃん市も日曜朝市から始まりすでに 22 年目になった。地域の人たちのおかげで頑張っている。目的は高齢者の生きがいの場づくりで始まり、地域の活性化、交流人口の増加、特産品開発にも目を向けている。そういった立場から意見が出せたらと思う。
■小林委員　恵那商工会議所青年部次年度会長の立場で来ている。普段から恵那のまちづくりのために少しでもという思いだ。力になればと思う。
■佐々木（厚）委員　恵那テクノパーク協同組合から来た。企業代表として頑張りたい。
■佐々木（亀）委員　明知鉄道株式会社から来た。日頃は協力ありがとうございます。明

知鉄道は観光列車に力を入れている。今日もテレビ放送があり電話が鳴りやまなかった。今後も頑張りたい。

■佐々木（透）委員　働く者、勤労者で組織している連合岐阜東濃地域協議会副議長をしている。今後恵那市内の全ての労働者が安心して働き続けるまちづくりをしたい。

■鈴村委員　中野方町杣組。山づくりを行うボランティア団体だ。山づくりは必ずまちづくりにつながると思っている。

■樋田委員　恵那市地域自治区会長会で、笠置町の会長をしている。前は市民委員会、審議会でかかわった。生涯学習の担当をしていた。地域づくりは人づくりだと大きく感じている。元気になるまちの基としてそれが盛んになるといいと思う。

■西尾委員　体育連盟。恵那市は健幸まちづくり宣言をした。体育連盟として市民が運動できる施設づくり、態勢づくりなどをしたい。

■西村委員　岐阜大学から来た。総合計画を策定する委員会の責任者をやっていた。この会議にもかかわりをもたせていただくことになっている。

■橋本委員　かえでホールの代表で、恵那の文化振興会の理事をしていて、そこからこの会議に来ている。小学校から 97 歳の人までかかわっている。家でピアノと英数塾、恵那南高校の保育音楽の講師、童謡を歌う会を明智町でやっている。そこでは 97 歳の女性が元気よく歌っている。幅広い年齢層と付き合っている。こういう会議は不慣れだがよろしくお願いします。

■長谷川委員　東美濃農協理事。出身は中野方町。農協もＴＰＰや農業改革など難しい問題を抱えているが、まち、市があってのことなので、微力ながら協力したい。

■堀委員　観光協会。一生懸命務める。

■三浦委員　恵那南高校教頭。恵南唯一の県立高校だ。地域の人にお世話になっている。

■宮崎委員　来年度から区の老人会の役員をやる。高齢者だ。任期が務まるかどうか心配だが元気なうちはやる。文化財保護委員会の代表として来ている。

■森井委員　恵那高校教頭。日頃生徒が図書館や体育施設でお世話になっている。少しでも役に立てればと思う。

■森川委員　恵那市社会教育委員会、長島町から来た。今年度社会教育委員は 1 年目なので、勉強しながら頑張る。

■吉田委員　公共職業安定所。ハローワークだ。恵那市の人口力の確保、推進の方で役に立ちたい。

■渡邉委員　恵那市景観審議会。恵那の自然、緑、形、色、いつもこういうことをテーマに会議をしている。

■事務局（進行）　職員については名簿を見てほしい。各部の管理職が出ている。

3．市長あいさつ

■事務局（進行）　市長からあいさつをいただく。

■市長　今日が雨で良かった。2 年ほど前、恵那市は雪で大きな災害になった。先日の雪も心配したが大きな災害にならずに良かった。29 名に委嘱書を渡した。名称は恵那市総合計画推進市民委員会だ。快くお引き受けいただきありがとうございます。任期は今日から 2 年だ。お忙しいと思うがよろしくお願いします。

恵那市は合併して 12 目になる。総合計画はまちづくりの最も基本になる一番上位の計画だ。1 期の総合計画は平成 17 年に策定し、平成 18 年から 10 年間で、今年度で終期となる。次の 10 年のまちづくりの指針として第 2 次総合計画を策定した。平成 16 年 6 月に私から総合計画審議会に諮問をし、1 年 4 カ月かけて審議し、総合計画を策定した。昨年 12 月の恵那市議会で議決した。今年 4 月からいよいよスタートする。この計画を実行するため、そしてそれを進行管理する、ＰＤＣＡのＣ、チェックをしっかりしていただく。その上に、こういう時代がめまぐるしく動くときなので、常に変更が出ると思うので、毎年ローリングする。そういったことにおいて皆さんの意見をしっかり聴き審議いただく。皆さんからこの計画について時代に合っていないということがあれば提言いただきたい。

もう一点、地方創生のまち・ひと・しごとの恵那市の戦略を策定することになっている。すでに各自治体では岐阜県ではほとんどが策定している。ただ、恵那市は総合計画策定が終わってからそれに沿った戦略を作るべきということで、まだ策定していない。本日、地方創生の恵那市の戦略について皆さんにご審議いただきたい。

お忙しい方々ばかりだが、しっかりしたまちづくりができるようご尽力をお願いしたい。

私から特に申し上げたいのは、恵那市の大きな課題は、全国的にそうだが、人口減少だ。特に恵那市は東濃 5 市でも一番高い高齢化率だ。高齢化というのは少子化で人口減少になる。広報の 1 月 15 日号で、昨年 10 月の国勢調査の速報を出した。現在 51,086 人で、5 年前より 2,632 人の減少。4.9％減。上矢作が 1,961 人なので、それ以上の町がなくなったことになる。5 年前の 1 月 15 日の広報にも同じように載せている。当時 53,737 人で、3.65％、2,035 人の減少。上矢作町の人口が 2,200 人だったのでそれがなくなったという話をそのときもした。加速的に減っている。これに歯止めをかけ、人口減少を正面から見てどのようなまちづくりをするかということが大きな課題になっている。そのことが総合計画に対策として盛り込んである。皆さんの意見をいただきたい。

4．会長、副会長の選任

■事務局（進行）　推進市民委員会の要項、概要を説明する。

〔　事務局から資料に基づき説明　〕

■事務局（進行）　会長の選任についてはいかがか。

■委員　今まで総合計画の策定に携わっていただいた岐阜大学の西村先生はどうか。

■事務局（進行）　いかがか。

〔　「異議なし」の声あり　〕

■事務局（進行）　では異議なしということなので西村委員にお願いする。

副会長はどうしたらいいか、西村会長。

■会長　樋田委員にお願いしたい。

■事務局（進行）　では副会長に地域自治区の樋田委員にお願いする。

会長、副会長は前の席に移動していただく。

5. 会長・副会長のあいさつ

■会長　日頃は教壇に立っている。2 年前から総合計画の策定にかかわっている。そのときの思い、特徴を述べさせていただいてあいさつに代えたい。

総合計画は循環計画になっているが、恵那市の現状を見ると今後 5 年間が勝負だ。あらゆる分野がかかわっているので、総花的になっている。それが今までの一般的な総合計画だ。でもこの 5 年間を考えると、恵那市では、総合計画の組織があって経験を積んだ人の意見をまとめるより、今後 5 年、10 年後にこの地域を担う次の世代、30 代、40 代が元気でなければ、10 年後の先はないという思いがあったので、次の世代の意見をどのように汲み取るかということを重視した。もう一つは、13 地域で地域づくりをやっているので、地域づくりを担う 13 地区の足場が元気でなければ恵那市の魅力と言っても仕方ないということが分かったので、地域協議会のような地域の組織の意見をしっかり聴こうという、この 2 つが策定のプロセスでの特徴だった。その結果として、人口減少と財政事情に配慮しようという仕立てでなければ、10 年後に残すものとしては責任が取れない。人口減少と財政事情については配慮しながらやっていこうということで、総合計画ではその 2 つが全てのページにうたわれている。そうなると、全てのことができないなら、自分たちの持っている力や財政、組織の力をどこに集中したらいいかということについて、どこに集中したら地域を引っ張っていく機関車の役割を見出すことができるのかということについて、大分意見を聴かせていただき、文書化した。その結果として、やりたいことはいっぱいあるが、従来のようなやり方では足りないのではないか、いいことであってもそれを実現していくプロセス、やり方、させ方、そこでの工夫をすることによって、無駄をなくしてやってい

くということを考えた上で、今回は、計画実現に向けての手法ということで、今後宿題が残されている。そこで、ここの推進市民委員会では、そういう理念を引き継ぐとともに、今後の行政運営、地域づくり、次世代への実現のさせ方も含めてしっかりと意見交換ができる場であればいいと思い、今後この会議を運営したい。

■副会長　やれること、地域に入って何ができるか、何が大事なのかをしっかり見つめていくことが必要だと強く感じている。明知鉄道さんから話があった。1 月になって恵那市のことがテレビ放映されたのはもう 1 件あった。地域にいて、日本一だと誇れるものがあった。若い布団職人だが。その人の生きざまには非常に感心している。布団を一生懸命やっていて、「私は布団づくりだけで終わるつもりはない、地域に貢献するために何かできることがあるはずなのでこれからぜひ考えていきたい」ということを語ってくれた。地域の課題を考える中で、そういう若い人たちがどんどん育ってきていることを期待しながら、私にできることは微力だろうが、会長の足手まといにならないようにやりたい。

6. 会議の公開、公表について（確認）

■事務局（進行）　この会議は公開とし、議事録等も公表する。

以降の進行は会長にお願いする。

7. 第 2 次恵那市総合計画の概要説明

■会長　本日は総合計画を皆さんにしっかり理解していただく。その上で地域創生についての計画策定をお願いしたい。それについての意見をとりまとめたい。

まず事務局から報告を受け、その後質疑を行う。総合計画にかかわってこなかった人にも理解していただきたい。

〔　事務局から資料に基づき説明　〕

■会長　総花的だが、それを 10 カ年のどの時期にどのテンポでどの深み、厚みをもって行うか等々はしっかり議論しないといけない。集中論という言葉で言うが、全てはできないので重点的にやらざるを得ないというところまでは合意があるが、力の入れ具合、抜き具合は進行管理の中でやっていきたい。

それと、この後地方創生の話をしたいと思っているが、総合計画は総合計画として進めていくが、10 年の間には政府でも新しい補助制度や新しい計画ができるので、自分たちの骨組みとしては 10 カ年計画を進めていくが、それを政府のこの部分を導入して実現させた

らテンポが早まるとか、補助金レベルのものを導入すれば負担が軽くなるので、軽くなった分を違うところに向けたりと、実現のさせ方の問題とも連動する。

次に、まち・ひと・しごとの総合戦略と、総合戦略にはうたいこむとすれば次のような条件が必要になる。事務局の説明の後、ご意見をいただきたい。

〔　事務局から資料に基づき説明　〕

■会長　聞きなれないこともあり難しいだろうと思う。総合計画を作るときには、自分の経験に基づいて、強さ、弱さ、という議論で皆さんの意見を聴くが、今度は決まった計画があるので、10 カ年のところをできたら 5 カ年でやれればいいとか、進行管理をしていく。時代が変わって大きく変わるようなことがあれば、計画の見直しも含めてチェックしていくというのがこの委員会だ。総合計画も、0 から一気に 100 にはならないので、初年度、2 年度というように年次別に到達目標値が作ってある。それは事前に配布されているか。

■事務局　配布した。

■会長　だから、階段の 1 段目、2 段目、というように実現のテンポが示されている。幸いにもそれを準備していたので、5 年間について総合戦略という言い方で 5 カ年計画の提案をしてくれば、それを励ます意味で補助金を付けるというもの。総合計画がそもそもあるのでそれを実現させる形で、政府から総合戦略としてこういう指標を入れるという要請があるので、それが我々の持っている数値と合えばそれを使い、新しく設定しなければいけない数値があれば、それを総合計画に照らし合わせて再整理する。それによって今回の総合戦略を再整理した。再整理してみると今のような報告になる。数値だけ追うと意味が分かりにくいと思うが、そういう趣旨で事務処理をしたという文書だ。

質問、意見があれば。

■委員　事前に読んだ。議事録が公開されるということなのであまり変なことがしゃべれないような気がする。

大変興味を持った事項が 1 つある。資料 2 の 4 ページ、14 歳から 26 歳ぐらいまでの人口が減っていく、社会減が、恵那市の人口減の大きな要素となっているという中で、男の人は 20～24 歳でUターンしてくるが、女の人はUターンの率が低い。一番人口を減らしているのは、日本創生会議も言っているが、若い世代、特に出産適齢期の女性が減っていることだ。特に、将来消滅する自治体が 800 ぐらいあり、そこでもそう言われている。4 ページの、女性がなぜあまり戻ってこないかに触れてある。本市が実施した転出者のアンケートにおいても、男性の転出は就職、転職が理由である割合が高い。女性は主に結婚により転出した割合が高いので戻ってこないと。一番問題なのは若い女性の転出、人口流出をどう歯止めをかけるかだ。アンケートとあるが、この辺は、数字的に確かめられるのか。もし

も確かめられていた場合、結婚により転出したというのを結婚により転入したというようにしたい。その辺の対応策は考えているのか。

■事務局　5ページにデータがある。結婚して転出している理由が、6ページの上に女性の分がある。明らかに女性が結婚によって転出している。20～30歳が60.0%。社会動態でも、特に転出理由が、仕事というのが全体として多いが、2番目が結婚、3番目が学業だ。

これに対してどうしていくのか。第2次総合計画でも、人口減少対策を重点的にしていくという中で、若い人が恵那で定住する、外に出るのを止める、一旦出ても恵那に住むことをしっかり支援していきたいということで、住宅、アパートの家賃の支援、あるいは市街地だけでなくて、恵那市の周辺地域、山間地域でも住宅を造って住んでいただくことを支援するような制度を28年度以降はしたい。それもこれから議会に提案したい。

■会長　算定をしていたときに、前審議会で出ていた意見は、事務局が話したこともあるし、子育て環境の問題、あるいは出産、病気という医療体制、教育または放課後の子どもも含めた、広い意味での学習環境などにやろうというものがあるし、若い女性、若い人が働ける場を準備しないと、農村暮らしがいいとか山村の環境がいいということがあったとしても、定年間近の人が、あまり医者にかからないうちは山の中でのんびりするかというところがあるかもしれないが、30代と40代で社会からリタイアするようなことになってしまうと、子育てのための仕事と考えるとありえないので、職場という問題とも連動しながらやっていく条件を作らなければならない。企業による職場というのもあるが、ＮＰＯとか、農家でも従来は世襲の農家だったが、農業生産法人のような企業形態で、そういうところに雇用されるということもあるのではないかということも含めて、もっと血縁でつないでいく地域から、協同組合や生産法人という法人形態をしっかり作りあげていって、そこに雇用されるという、条件づくり、規制緩和、そういうものを作り出していく必要があるということが大分議論された。が、その具体的な、農業や山林とかいう場合にどうしたらいいかということについてはまだ残されている。それが、実現する仕方という冒頭の話で、そこに皆さんの知恵をお借りしたい。それは農林部だけの仕事ではなく、農林と学校教育が連動しなければ、実際の暮らしは成り立たない。それは縦割り行政を克服する話と連動する。

それについて、何を重点的に進めて、どんな事業形態のものを準備したらいいのかについては、残されている課題であるし、論が詰まりきらないというのが認識だ。むしろ今後詰めていきたい。

そのほかご意見は。

■委員　恵那山の向こうに長野県下條村がある。テレビで奇跡の村というのでやっていた。東京一人勝ちのようになっているが、地方の人口4000人ほどの村でも、何とか頑張れば成功例もあるという実例だった。先日富山にも行った。富山市はコンパクトシティ化でいろ

いろなものを集約して住みやすいまちを創っている。暮らしやすいまちだという印象を受けた。真似をするということを皆さんはどう思われるか分からないが、いいところを勉強して、それを踏まえて恵那市なりに形を創っていくというのは悪いことではないと思う。いろいろないいところから学び取るという部分で、もっといろいろなまちの成功例を調べて取り入れたらいかがか。

■会長　成功例を勉強していただいて、2回目、3回目で部会に移るので、部会では西尾さんが紹介してくれて、現場に実現していく。委員はそういう役割をお願いしたい。当然行政には勉強させる。これから総会的なものばかりやっていても細かく煮詰まらないので、専門部会的に詰めて、そこでどんどん意見を言っていただきたい。そこで埒があかなければ総会の場に持ってきてほしい。

　そのほか。

■委員　私は企業で仕事している。昨年9月まで関東にいた。恵那市の現状の施策を見た。数多くの計画を立てられている。今進めているものもあると思う。たとえば 6 次産業の振興とある。現実恵那市にそれのどういう事例があるか。分からないので、そういった資料もいただけるということか。

■会長　今準備させている。次の回の 4 月頃やる。過去 5 年間、第 1 次総合計画の後期計画のところで何をやってきているのかについて総括しなければいけない。到達点を見つめ直すことを次の作業にする。今日認めていただく予定の総合戦略を、全部オーケーというわけにもいかないだろうから、ここは良い、ここは悪いということも含めて報告し、新年度どう進めていくかという会議は春にやる。

　今回は学校関係者に委員をお願いしていて、いいことだと思う。中学、高校を含め、郷土についてどこかの時点でしっかり知っていただくということがないと、血縁関係だけで引っ張るということになってしまうので、学校教育で地域とも連携して郷土教育を進めていただきたい。

■委員　今年になってからまちの中でいろいろな人と会った。奥さんが横浜、旦那さんが名古屋、で、9人目の赤ちゃんを抱いてという人が、Ｉターンで串原に来ている。建築士で、会社で課長級の人が、旦那さんが育休を取ったが会社としては初めてで風当たりが強く仕事を辞めざるを得なかった。豊田に来て、串原に古民家があって来た。ご主人は、何番目かの子どもがアトピーだったので、アトピーの子のための食事ということで、整体も始めて整体師と料理研究家になって、恵那市内を講演したり、整体と食ということを結び付けてやっているということに感動した。それを受け入れている恵那市の風土が嬉しい。加子母から森林組合に来て働いていて阿木に住んでいる人が、道の駅にいるので商品として出したいということを言われたり。そういう人たちと触れ合う中で、現在Ｉターンとして来ている人が、本当に恵那市を好きで楽しく過ごしているのか、それとも何か合わないとい

う形で無理しているのか。恵那市にどっぷり浸かっていると恵那市の良さが分からないので、そういう人たちの意見を聴いて、もっといいものを見つめ直す。人がまちを創る。私も基本は人だと思う。Ｉターンの人たちが居心地良く過ごしているという追跡調査とか、そうすることでもっとＩターンをどう受け入れるかということにつながると思う。

6 次産業化の話。6 次産業化の予算はいろいろなことをクリアしないと採れない。1 軒の農家が自分のところでやろうとするとハードルが高い。3 戸以上の農家がグループを作らないと補助金がもらえない。おばあちゃん市は 12 軒が自分で起業家になっている。自分で許可を取って自分のお金を出して営業許可を取って道の駅や手作りの店に出している。そういう人たちは、60 歳を過ぎてからの企業だった。年金プラスアルファでいきいきと頑張っている。そういう人たちがもっと多く恵那市に増えるといい。そこのところでどうやったら 6 次産業化の生産から販売ということができるような仕組みづくりが、もう少しゆるやかに考えてもらうと、もっと高齢者が生涯現役で頑張れる。そういう人たちは本当に地域資源だ。梅干しづくりが上手だとか。そういうノウハウを持った人たちがいっぱいいても、それを発表する場がない。ただそういうことができれば、本当に豊かな恵那市、その辺をもっと支援できるような、農業者をもうちょっと、農業だけでなく、ちょっと加工して売るという。そうして生活の安定が図れればいいと思う。

■会長　Ｉターンのような一定のカテゴリーの人にヒアリングしてはどうかということ。行政も聴くが、この委員会もそういう規定を持っている。ここの構成員で議論するだけでなく、必要に応じて、そういう問題について議論する必要があると、Ｉターングループの代表者ということで、プラスアルファ要因としてオブザーバーで陳述してもらうこともできる。同じことを部会でもやってもらったらいい。この 29 人で全知全能になるわけでもない。それの足りない経験・知識について各部会長は、ある程度テーマを決めて、その人たちは臨時委員なので、固定委員ではないという扱いをして、今回のこのテーマについてということで柔軟な議論をしてほしい。運営についてはそういうことだ。

あとは 6 次産業の話は詰めていただきたい。

そういうことが必要で、何かをやろうという思いを持って、条件をクリアしていかなければいけない。それが仕組みづくりだ。思いを仕組みづくりに載せるのが実現の手法だ。それでもなお超えられない壁があれば、それは構造特区に出すとか、次の壁の乗り越え方を考える必要がある。それが実現のさせ方だ。その議論を現場でやってもらう。

皆さんの今後に期待するということはそういうことだ。学校教育でも小学校と中学校は別だというのは６・３制のことで、小中一貫校の設定もできる。本当に必要なら。従来の小学校、中学校、農家の農地という固定観念の延長線上だけで議論すると、なかなか恵那市全体の人口減少の流れが止まらない。戻そうと思うと、何か新しいものをそこに載せてこないといけない。そのときに、何をどう載せれば恵那市の教育水準が上がるのか、恵那

市の雇用状況が改善するのか、恵那市の暮らし、労働条件がクリアできるのか。一般的な人口減少という言葉ですくわれているが、恵那市は 90 年代半ばぐらいから、社会減で若者が出ていくのはもちろんだが、出生数より死亡数が増えている。これは大変だ。従来の 1970 年代の場合は、家には人がいた。ところが人がいなくなると、農地で耕す分担い手がいなくなる。森林の担い手が。従来は 3 人のところを 1 人でやるようになったので、コンバインがあればできたとか、1 人が残っていれば、援農グループなどにお願いすればできた。ところが、いなくなれば放置化される。その動きが恵那市でこの 10 年位徐々に広がっている。今後 10 年は待てないだろう。やるとしたらこの 5 年だという意味だ。ただそれがぐーんと下がっているのではなく徐々に進行している。ほかの地域だと、若者が出て行くという社会減で減っているのは当然だが、自然減でもっと急に下がっているところがある。それは、その集落からは、継続させるのは無理だと思う。恵那はまだ、ゆっくり気味なので、今手を入れれば何とかなると思う。そういう意味では、農地は農家の後継者で、次の世代の息子が継ぐという固定観念でやっていては、下げ止まりにならない。だからちょっとやり方を変えたい。それがいいかどうかは部会や現場の行政で十分議論してほしい。

今後、委員会の運営と部会設定等について、新年度に向けての説明をしてほしい。

〔　事務局から資料に基づき説明　〕

■会長　今後部会を設置しますので、そこで詰めた議論をお願いしたい。既成の概念に捉われずにやっていただきたい。市政全体では、総合計画を進めていくものと、行財政改革審議会という財源確保を含めて危機管理をしていくものが車の両輪になっている。あとは、皆さんは当委員でもあるが、地域協議会、それぞれの団体、組織の運営に影響をもたらす方であり、そこでの議論が必要であればしていただきたい。

それでは会議を終了する。今後、2 時間の会議を予定する。

■事務局（進行）　年度替わりで委員の交代をする場合は事務局に連絡をいただきたい。本日の会議は終了する。

〔　閉　　会　〕